

やり残し

2023. 10. 15

この前、ある人と話した。以前、同じ職場でお世話になった方である。その方は、ご家庭の都合もあり、60歳定年前にご退職された。もし、可能であれば、野田中学校の非常勤講師をお願いできないかと思い連絡をしてみた。

久しぶりだったので、いろいろな話をした。その中で、「やり残し」という言葉が出てきた。そうか、退職をし、仕事を離れると、そのような考えになるのか。それから、妙にこの言葉が頭に残るようになった。

時間ができたら、やりたいことはある。だが、やり残しとは少し違う。やり残しとは、今までやろうとしていたが、やることができなかつたことだろう。あるいは、やってみたものの、うまくいかなかつたことだろうか。

これからの残された時間で、すべてのことができるわけではない。やれることは、ある程度限られてくるだろう。その方は、大学に通っているとのことだった。わかるような気がする。学びたいという気持ちを理解できる自分がいる。もっと学べばよかつたという後悔もある。若いときは、あまりにも物事を知らなさすぎた。無知そのものだった。

学びたい以外では、見たいという気持ちが強い。すなわち、旅に出たい。自分の国、日本ですらまだまだ見ていない。京都には、1か月はいたい。東京にも長期にわたつて滞在したい。ヨーロッパにも行きたい。そのためには、予習が必要である。知識がないと、同じものを見ても味わい方が変わってきてしまう。結局は学びである。知りたいという欲求は大事である。

その方は、音楽が専門なので、演奏会にも行っているとのことだった。うらやましい。人生が豊かになる。音楽でも、美術でも、スポーツ観戦でも、料理でも何でもいいから、好きなこと、夢中になれることがほしい。これは、だいぶ前からの願望である。それが、相変わらず見つからない。とりあえず、いろいろやってみるか。そのうち、自分にヒットするものが出てくるかもしれない。

非常勤講師の件は、断られた。それはそうである。やり残していることができなくなってしまう。やりたいことができないことよりも、やり残しがあるという思いのほうが、嫌な気がする。やり残しというのは、それだけ思いが強いということだろう。そう考えると、その方よりも私の思いは弱いと思う。こんなことをやってみたいという考えはあるが、やり残しと言えるほどのものなのか。

その方には、まもなく本校に来てもらう。10月21日(土)である。校内合唱コンクールの審査員としてである。審査後の講評では、生徒の前でどんな話をしてくれるだろう。学校を離れている方だからこそ、余計に楽しみである。

もうしばらく、やり残しについては、考えていきたい。自分でも、やり残しと思えるような強い思いが出てくることを期待している。